

春告草

令和2年 第2号 4月30日 進路指導部発行

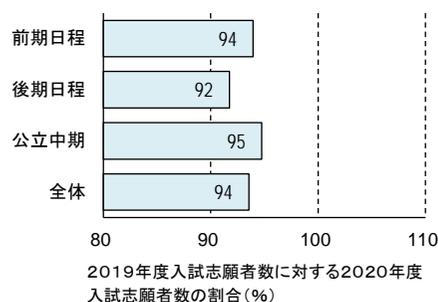
2020年度大学入試を振り返る（国公立大学編）

新年度が始まり、三週間が過ぎました。例年とは異なる状況ですが、自宅学習は順調に進んでいるでしょうか。大学入試に関しては、今年度から新テスト「大学入学共通テスト」を受験します。年度初めにあたって、昨年度の大学入試を振り返っておきましょう。

国公立大入試全般

今回は国公立大入試を振り返ります。文部科学省が発表した2020年度国公立大一般選抜の志願状況は443,066人と45万人を下回り、前年度と比べて30,492人の減少でした。前年度は8年振りに増加しましたが、再び減少に転じました。国立大は9年連続減少、公立大は5年ぶりに減少となり、志願倍率は4.70倍→4.41倍となりました。このように一般的に、予定されていた大学入試改革を前にした不安とセンター試験平均点ダウンを色濃く反映した志願状況となりました。入試日程別の志願状況は図1（数値は前年度志願者に対する比率％）に示したように全体的な減少が分かります。

図1 国公立大入試 日程別志願状況



難関国立大は志願者減

旧帝大を中心とした難関10大学の志願状況は表1のとおりで、前期試験に関しては、これら10大学全体で3,666人、前年比94.9%の志願者減となりました。いくつかの大学を個別にみていきましょう。

東京大学 大学全体の志願者数は、224人（前年度志願者数を100とする指数で98、以下同じ）と2年連続減少した。科類別に見ると文科一類が4年連続で増加し、文科二類は前年比指数94、文科三類も同96と減少した。理科一類の志願者が2年振りに増加に転じ、理科二類は2年連続減少した。一昨年度入試から導入された面接試験に加え、第一段階選抜の実施倍率が4倍から3.5倍に引き下げられたことなどから3年連続志願者減だった理科三類は、その反動と、センター試験第1段階選抜通過予想ラインが低かったことが影響して4年ぶりに増加した。理一は前年比指数100、理二は同95、理三は98であった。

一橋大学 前期日程の志願者数は前年比指数93で2年連続減少となった。学部別では経済学部で前年比78と大幅減、これは2013年度以来の500人台の志願者である。商学部でも同90と志願者は減少し、これは2015年度以来の700人台の志願者数であった。法学部は前年比101と微増、社会学部は同103とやや増加した。また、経済学部のみで実施する後期日程は、志願者数は前年比96で、2年連続減少した。

東京工業大学 昨年度より類別募集から学院別募集へと変更になり、前期日程は6つの学院から希望する順に3学院を選択して出願し、全学一括で選抜が行われた。前期は432人減少で2年連続の減少。志願者数も3700人台になった。学院別の志願状況を見ると唯一の増加は理学院（前年度比指数102）であった。情報理工学院は

表1 国立難関10大学出願状況

大学名	前期日程試験		後期日程試験	
	志願者数	前年比	志願者数	前年比
北海道大	5,474	93.7	4,278	95.1
東北大	4,384	91.0	1,354	94.0
東京大	9,259	97.6	—	—
東京工業大	3,790	89.7	512	103.0
一橋大	2,490	92.6	1,075	95.7
名古屋大	4,422	93.3	55	82.1
京都大	7,347	97.8	352	68.5
大阪大	7,462	99.0	—	—
神戸大	5,569	93.9	3,746	93.0
九州大	5,014	95.7	2,227	96.4
難関10大学計	55,211	95.1	13,599	94.0

前年度高倍率の反動でやや減少したが、それでも志願倍率は 9.1 倍で、他学院と比較しても群を抜いて高い倍率である。逆に志願倍率が最も低かったのは生命理工学院(2.3倍)である。後期日程は生命理工学院のみの実施で、志願者は前年比 103 と増加した。工学院は前年比 84 と大幅減少、物質理工学院は前年比 90 で志願倍率は 2.7 倍にダウン、環境・社会理工学院は大幅減少で減少率は全学院中最大となり倍率は 3.9 倍までダウンした。

京都大学 大学全体では前期は 164 人(前年比 98、以下同)の微減で 7 年連続減少。文理別では、文系は 58 人(98)の微減で 2 年連続減少、理系も 106 人(98)の微減で 6 年連続減少。各学部の前期日程志願者増減は文(96)、法(102)、経済文系(107)・同理系(83)、教育(72)、総合人間文系(85)・同理系(115)、理(92)、工(103)、医(93)、医(人間健康科学)(95)、薬(93)、農(91)である。

大学入試の基礎知識(第1回)

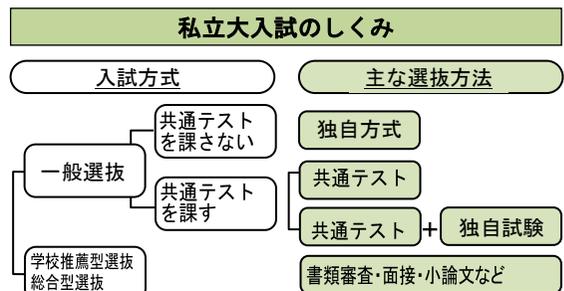
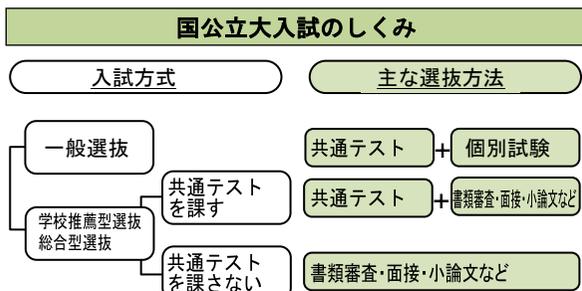
今年度から新入試がスタートする。文部科学省が提起した「学力の3要素」(右図参照)をバランスよく評価するという狙いがある。受験年度のスタートに当たり全国の大学の学部・学科、入試方式、その他受験に関するさまざまな事柄を積極的に調べてみよう。

* 大学入試の基本的な仕組み

大学の入学試験は、基本的には各大学・学部が個別に実施し、選抜方法もそれぞれ独自のやり方で行っている。

従来の大学入試センター試験に代わって「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)が導入され、国公立大学志願者は原則として受験が義務である。多くの私立大学でも共通テストが利用される予定であり、センター試験同様に大学入試の軸となる入試である。学科試験による「一般選抜」、面接や小論文などで選考する「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」が主な選抜方法だが、中心となるのは一般選抜であり募集人数も多く、学力勝負の選抜が行われている。従来の名称からの変更は右図の通り。

* 国公立大および私立大の入試方法・主な入試方法・基本イメージ



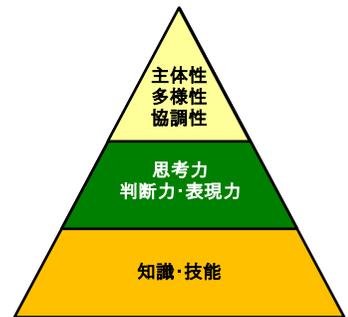
■ 一般選抜について

国公立大の「一般選抜」は、共通テストが必須で、共通テストの得点と個別試験(2次試験)の得点を合わせて選ばれる。一方、私立大については、共通テストは必須ではないが、共通テストの成績だけで合否が決まる共通テスト利用方式や共通テストの成績と独自試験の成績で合否を決定する併用方式も行われている。

・**国公立大の個別試験**…「前期」、「後期」に分けて行う。公立大学はこれに加えて「公立大学中期日程」が行われる。公立大を含めれば、最大で3校まで受験できる。共通テストと個別試験との得点配分や受験に必要な教科・科目については大学・学部・学科により様々である。

・**私立大の一般入試**…何校も受験できる。3教科受験が主流であるが、2教科のところもある。共通テストを使わない「独自試験方式」と共通テストの成績を合否判定に用いる「共通テスト利用方式」、双方を併用する「共通テスト・独自併用方式」の3つの方式がある。なお、試験名称は大学により異なる。

新大学入試で問われる3学力
学力の3要素



主体性・多様性・協調性は調査書や志望理由書などで評価するという。

2020年度入試まで	2021年度入試から
大学入試センター試験	大学入学共通テスト
一般入試	一般選抜
推薦入試	学校推薦型選抜
AO入試	総合型選抜